



## 大学入学試験のしくみについて知ろう!

みなさんは大学入試についてどれだけ知っているでしょうか?大学入試には、大きく分けて「一般選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」の3つの方式があります。自分に合った方式を選択することで、同じ大学・学部・学科を受験する場合でも合格できる可能性を高めることができます。今号で大学入試への理解を深め、自分の進路をより効果的に選択できるようになりましょう。

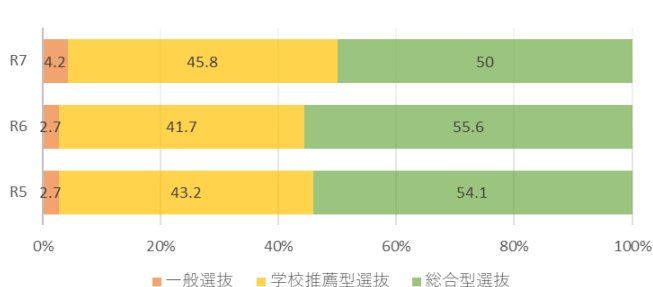
### ●各方式の特徴

3つの方式について、それぞれの特徴やメリット・デメリット等を下の表にまとめました。ただし、この表にまとめたことは、あくまで大まかな特徴です。同じ方式でも学校ごとに異なる点があるため、事前にしっかりと調べましょう!

	一般選抜	学校推薦型選抜	総合型選抜
選考時期	1月~3月	11月~12月	10月~11月
出願条件	特になし	評定平均、欠席日数、検定など	オープンキャンパスへの参加など
評価方法	学力試験	学力試験、書類、面接、小論文など	書類、面接、プレゼン、活動実績など
併願	可	原則として不可	原則として不可
メリット	公平性が高い 最後まで逆転可能	合格率が他と比較して高い	進路決定の時期が早い 個性や経験が活かせる
デメリット	膨大な勉強量が求められる	条件を満たしていないと受験不可 1、2年次の結果をやり直せない	準備に時間がかかる 合格基準が分かりにくい
向いている人	学力で勝負したい人 最後まで粘り強く努力できる人	成績や欠席が安定している人 1年次からコツコツ努力し続けた人	主体的に学校生活を送ってきた人 やりたいことが明確な人

### ●最近の傾向

大学進学者 入試方式の割合 (本校)



左のグラフは、本校から大学に進学した人がどの方式を受験したかを示しています。いずれの年度でも最も多いのは総合型選抜で、半数以上の卒業生が利用しています。逆に最も少ない一般選抜を利用する生徒は毎年1~2名程度です。卒業式の後に合格発表がある生徒もあり、最後まで粘り強く学習に取り組んでいました。

一方、全国的には一般選抜が約5割、学校推薦型選抜と総合型選抜を足して約5割ですが、ここ数年で総合型の人気上昇し、一般選抜が5割を下回り始めています。さらに、人気の上昇に伴って倍率も上昇傾向にあることや、総合型選抜にも学力試験を課す学校が増加傾向にあることなど、合格難度が高まっています。

### ●総合型は楽!?

よく「総合型選抜が楽」と誤解している人がいます。確かに、総合型選抜は学力以外の検査が多いことなど、一見すると楽に見えてしまうのかもしれませんが、しかし、総合型選抜は「受験生の学ぶ力を多面的・総合的に評価・判定する」方式です。どういうことかという、学力以外の面"も"評価しますという意味で、学力が必要ないわけではありません。ここでは、総合型選抜を受験するにあたり、注意すべき点を紹介します。

- ① 競争率が高い … 募集が少なく、倍率が高くなりやすい
- ② 明確な志望理由が必要 … ありきたりな志望理由では評価されにくく、他の受験生と差がつけられない
- ③ 自分の意見を明確に表現する準備が必要 … 直前の準備だけでは身に付かない
- ④ 小論文や課題に対応する学力が必要 … 学力試験がない場合も、小論文や課題が課されることが多い

以上のように、注意すべきことは多く、学力さえあれば合格を目指せる一般選抜よりも難しいとされることもあります。志望する学校がどのような学生を求めている、どのような試験が課されるのか、情報収集から時間をかけて、しっかり準備して臨みましょう。

ただし、総合型選抜の課題や試験の中には高度な専門知識を必要とする場合も多く、受験生1人では準備が難しいこともあります。そんなときには「チューター制度」を利用してみましょう。「チューター」とは個別指導員という意味で、担任ではなく、専門科目の教員から総合型選抜の指導を1対1で受けられる制度です。申し込み期間は6月1日(月)~8月19日(水)で、申し込みが完了した人から随時指導を開始します。早めの準備が合否を大きく左右します。心配な人、興味のある人は担任の先生に相談してみてください。